

2019年2月9日に第4回中央病院メディカルラリーを行いました

患者急変は院内のどこでも起こります。当院ではラピットレスポンスシステム（RRS 緊急対応システム）を2年前より開始し、RRSを呼ぶ指標としてNational Early Warning Score(NEWS 早期警告システム)を採用しています。しかし十分活用されているとは言えないのが現状です。

当院では数年前より院内で状態変化した人に対し、初期対応を行うシミュレーションを行ってきました。行うにあたりNEWSの活用ができるようになる。初期評価、一次評価、iSBARcが使える。初期対応ができる。という目的を立てて競技を行いました。

チーム構成は、医師1名と看護師は病棟毎に3名、そこには放射線、検査技師、臨床工学技士、薬剤師なども参加し6チームで対応内容を競います。標準的な治療ができなければ心肺停止になったり、コミュニケーションがうまくいくチームは対応がスムーズなど評価ポイントは様々です。



開始前のオリエンテーション



チームの打ち合わせ中



コメディカルが発見し初期評価をしています



看護師が到着し一次評価



敗血症性ショックのブースでNsが初期対応しています



SBARを使って医師に報告



医師による二次評価



治療を行っています



CASE が終了



CASE の振り返り



修了式 優勝チームの表彰です。おめでとうございます!!

参加者は医師 6 名、看護師 20 名、その他コメディカル 4 名の 30 名がプレーヤーとして競技に参加してくれました。後の感想では、『新人ほど経験が少なく、ロールプレイで体験・実践できるのは貴重』『NEWS を活用すると患者の状態を共通認識できるので良いと思った』『ISBARC で医師がどの様に報告を受けたら把握しやすいか理解できた』等、一人のひとが卓越していても患者が最良の結果にはならない、チーム力が患者を助けるということが実感できたようでした。